

<ポイント版> ぎふ経済レポート（令和3年11月分）

【製造業】

○製造業は、9月の鉱工業生産指数は前月比▲5.2%と低下。ヒアリングでは、これまでの減産分に対する挽回生産の動きが見られ始めた一方で、原油や原材料価格の高騰による収益性の悪化を懸念する声が引き続き聞かれた。

【地場産業】

○地場産業は、9月の鉱工業生産指数は、繊維工業と家具を除いて上昇した。ヒアリングでは、受注回復の兆しから今後の先行きに期待する声があった一方で、仕入れコストや燃料費が上昇しているとの声が聞かれた。

【設備投資】

○設備投資は、9月の全国の金属工作機械受注額は、前年同月比で81.5%増加した。金融機関からのヒアリングでは、脱炭素化の意識は高まっているものの、そのために設備投資をするという動きは一部の企業に限定される、との指摘もあった。

【個人消費】

○個人消費は、10月の販売額は、コンビニを除いて上昇した。ヒアリングでは、気温の低下等により一部に堅調な消費の動きは見られたものの、今後の家計負担の上昇による消費マインドの落ち込みを心配する声も聞かれた。

【観光】

○観光は、9月末をもって国の緊急事態宣言が解除され、10月15日からは県民割引キャンペーンが開始されたものの、GoToトラベルの実施期間と重なる対前年同月比及びコロナの影響を受ける前の対前々年同月比ともにマイナスとなるなど、厳しい状況が続いている。宿泊施設からのヒアリングでは、緊急事態宣言措置が解除された後も出足が鈍く、売上高・宿泊施設は大変厳しい状況が続いているとの声があった。

【資金繰り】

○企業の資金繰りは、10月の制度融資実績は、件数、金額ともに6ヶ月連続で前年同月比で減少した。金融機関からは、実質無利子無担保融資の返済や原油高の影響を注視する声が聞かれた。

【雇用】

○雇用面は、10月の有効求人倍率は1.54倍と6ヶ月連続で上昇した。ヒアリングでは、人材の過不足はないという声も一部にあったものの、業種や地域によっては人材の確保が思うように進んでいない旨の音が聞かれた。

【景気動向】

9月の景気動向指数（一致指数）は前月比で▲0.6ポイント低下し、10月の中小企業の景況感は同比で1ポイント上昇した。